

## 気軽に価値を生み出せることがプロボノの魅力

山村 一夫さん（NPO法人多文化共生センター大阪 支援チーム）

国籍や言語の違いを超えて互いが尊重しあう社会を目指し活動する「多文化共生センター大阪」。同団体がいま最も力を入れている取り組みのひとつが、子どもたちの進学と学力向上を支える「たぶんか進学塾」の運営です。インタビューでは、たぶんか進学塾の経営力強化に向けて取り組んだプロボノメンバーに、半年間の歩みを聞きました。

### 社内向け一斉メールがきっかけで

ープロボノチームに参加したきっかけを教えてください。

たまたま社内に配信されたプロボノ募集の一斉メールを開け、初めて「多文化共生センター大阪」を知りました。何となく気になり、プレゼン選考会の動画を社内のイントラネットから見て、「塾」、「多文化」、「大阪」といったキーワードに心が動きました。

ー「塾」、というキーワードにひかれた理由を教えてください。

自分自身は、大学や中高一貫校や、学習塾の経営に関するコンサルティング業務に携わってきました。また学習塾の経営をしたこともあります。そうした知見は今回の支援に活かせるのではないかと感じましたね。

### 「塾の経営力の強化」にフォーカスし支援を実施

ー実際の支援内容を教えてください。

プロボノチームは、大阪と東京の各事業所のメンバーが半々という構成でした。

チームでは、多文化共生センターさんが運営されている「たぶんか進学塾」の経営改善に向け、アドバイスをを行いました。

申請当初、多文化共生センター大阪さんとしては、塾を多店舗展開したいという目標もあったようです。しかし支援先とチームメンバーとが話し合った結果、まずは、今ある1つの塾をどう効率的に経営し、塾生である子どもたちの学力向上を支援するか、という観点からアドバイスを行うことになりました。

その後はたぶんか進学塾の経営について、細かいアドバイスをを行いました。といっても小さな塾ですので、我々の通常のクライアントとは規模もできることも異なります。そこで、まずは無理せず、塾講師やスタッフの確保、日々の業務のオペレーション、教材選択の考え方、といったすぐに活用できるアドバイスと、広報の方法や、塾講師やスタッフを含めた人材育成の方法といった、少し先を見据えたアドバイスの双方を行うことにしました。

### 団体の取り組みに意義を感じて

ー半年間を振り返って、このプログラムについてどのように感じられていますか。

なぜ自分が関わったのか、と考えると、多文化共生センター大阪さんの取り組みに価値や意義を感じていたからだと思います。担当の方には、我々からの質問・提案に対して、本当に実直に取り組み、対応していただきました。オープンでフレンドリーにミーティングが進むのが良かったですね。

社内では気配りのできるチームリーダー・メンバーにも支えられて、今まで培ってきた知見や経験をスムーズに活かすことができたかなと思っています。



ー今までの経験が活かした半年間だったのですね。

業務や経験の延長線上として、いわば“楽”に“気軽”に役立つことが出来る。強いコミットメントはできないけれど、多少なりとも団体に関わることで、一緒になって世の中への価値提供に貢献できる。そんな参加の形はいいなと思いました。

それは支援先の多文化共生センター大阪さんの過去の活動の蓄積、日々の取り組みや、子どもたちとの信頼関係があつてこそ可能なことだと思います。

（2015年5月7日）



山村 一夫 経営コンサルティング部 シニアコンサルタント

大学卒業後、事業会社経営、外資系再生型コンサル会社等を経て、当社に入社。学校法人の戦略策定・実行支援を手掛ける。「中長期経営戦略立案の支援」「学生の国際交流の活性化の為の調査」「世界大学ランキング向上の為の調査」「新学部・新学科設置検討時の市場調査・実現可能性の検証」「新コース制導入検討の支援」「広報戦略の立案・実行支援」等のプロジェクト実績あり。